

【 7. ま と め 】

- 保健室には、内科や外科的主訴だけでなく、心の悩みを抱えて来室する児童も多かった。
- クラスに馴染めなかったり、友人関係や家庭での悩みなど、様々な悩みがあった。
- 自身が、2学期に着任し、これだけはやろうと決めていたことがある。個に応じた対応を行い、児童一人ひとりの心の声を聞くことである。
- 保健室で見せる表情と、クラスで見せる表情は全く違う。
- 時代の変化と共に、児童が抱える悩みは大きく変化している。
- 今後も、ひらかれた保健室環境であること、誰でも利用しやすい保健室経営を心がけて、子どもたちの心と体の健康教育に努めていきたい。



表情が暗かったり、いつもと様子がおかしいな?と感じた児童に「今日の気持ちは、どれくらいかな?」と聞き、話を聞いていた。

- こまめに、「我慢をしない、つらくなったら保健室へ」とカウンセリング対応をした児童へ声かけ行っていた。

今年度も、学校保健活動を実施するうえで、学校医の先生方や保護者の皆様、地域の方々、全教職員の皆様に温かいご協力をいただき、とても感謝しています。
今後も、児童が心身共に健やかに楽しく安全に学校生活を送れるよう努めてまいります。